翔（しょう）

【岸田文雄季刊誌】

令和元年

81

Fumio Kishida DETAILED REPORT MAGAZINE

［自由民主党広島県第一選挙区支部］

Contents

○国政の中心において

○参議院議員通常選挙全国遊説

参議院議員通常選挙全国遊説

岸田文雄は自民党政調会長として、この度の参議院議員通常選挙の応援で全国を遊説にまわりました。

短い選挙期間の間、宏池会や自民党の同志の当選のため、細かく日程を組んで、できるだけ多くの選挙区に行き、できるだけ多くの人に訴えられるよう、全国を飛び回りました。

それぞれの土地でお世話になった方達や、足を止めて話を聞いたくださった方々、握手に応じてくださいました多くの方々に、改めて御礼申し上げます。

千葉県本八幡駅前

広島市の商店街で

兵庫県

香川県

山梨県

秋田県

熊本県

山形県

福岡県

街頭演説中の一コマ

季刊「翔」二八十一号　発行　令和元年八月二十九日

自由民主党広島県第一選挙区支部「翔」編集室

〒730-0013 広島市中区八丁堀六ー三　和光八丁堀ビル九階

岸田文雄後援会事務所

●国会事務所

〒100-8982 東京都千代田区永田町2-2-1

衆議院第一議員会館1222号室

TEL (03) 3508-7279 (直通)　FAX (03) 3591-3118

●広島事務所

〒730-0013 広島市中区八丁堀6-3

和光八丁堀ビル９階

TEL (082) 228-2411 (代表)　FAX (082) 223-7161

●岸田文雄ホームページ

https://www.kishida.gr.jp/

ケータイ用サイトQRコード

岸田文雄プロフィール

昭和32年生まれ。早稲田大学法学部卒業後、㈱日本長期信用銀行等を経て、平成５年の衆議院議員総選挙において初当選。以後９期連続当選中。

自民党青年局長・商工部会長・経理局長、建設政務次官・文部科学副大臣、衆議院厚生労働委員長などを歴任後、平成19年の第一次安倍改造内閣において内閣府特命担当大臣（沖縄担当など）で初入閣。初代消費者行政推進担当大臣として消費者庁新設の土台を作る。

平成23～24年にかけて党国会対策委員長として国会最前線で指揮をとり、与党に対して厳しい国会追及を行い、解散に追い込む。

平成24年には保守本流の政策集団である「宏池会」の会長に就任する。

平成24年発足の第二次安倍内閣において外務大臣として入閣。以降４年８ヶ月の長期間外務大臣を務め、その間オバマ米国大統領広島訪問などを実現させ、連続期間・専任期間としては戦後最長の記録を立てる。また憲政史上初の外務大臣と防衛大臣を兼務。

平成２９年自民党政務調査会長に就任。党の政策責任者として大きな期待と責任を担う。

岸田文雄フェイスブック

www.facebook.com/kishdafumio

日々の活動写真を中心に更新しています

内閣府特命担当大臣・国会対策委員長・外務大臣・政調会長
国政の中心において

文・翔編集部

岸田文雄が自民党政務調査会長に就任したのは平成29年8月ですから、実に2年以上、政調会長としての職にあります。またその前は4年8ヶ月という連続在職期間として戦後最長の長きにわたり外務大臣として日本外交を双肩に担っていました。さらに振り返りますと、岸田文雄が沖縄及び北方担当大臣などで初入閣したのは２００７年のことでした。

沖縄担当大臣時代に訪問した沖縄県南大東島

その後の自民党が野党だった時代には国会対策委員長として国会の中心で指揮を執っていましたので、実にここ10年以上、岸田文雄は日本の国政の中心において責任のある立場でその辣腕を振るっていたことになります。自民党の中で現在まで創設時の名前を残す唯一の政策集団「宏池会」の会長に就任したのは２０１２年のことであり、この立場においても岸田文雄は多くの場面でその力や影響力を発揮してきたと言えるでしょう。

■2度の国政選挙

岸田文雄は自民党政調会長として2度の国政選挙に挑みました。２０１７年の衆議院議員総選挙と２０１９年の参議院議員通常選挙です。この国政選挙において政調会長には政権公約を取りまとめるという、選挙の顔とも言える大きな仕事があります。岸田文雄はどちらの選挙においても政権与党として堂々とした政権公約を作成し、選挙においても自民党の勝利に結びつけることができました。

また選挙で言えば、２０１９年の統一地方選挙においても自民党としての政策パンフレットを作成しました。内容としては政権公約ではありませんが、地方選挙はじめ多くの場面において自民党の考え方を広く国民の皆様に知っていただくことができました。

与野党国会対策委員長会談

■法案等の審議機関として

自民党政務調査会は、政府提出法案いわゆる閣法についても、政府が国会に提出する前に審査を行います。ここで政府と与党との考え方を一致させ、ズレがあれば修正を行い、政府与党が一体となって法律案への責任を負うことになります。

例えば今年一月からの通常国会における閣法の提出数は57本であり、このうち54本が成立しました。また昨年の通常国会では65本提出し60本が成立となっており、成立率は今年が94.7％、昨年が92.3％と高い水準となっています。

政府提出法案は、まず党所属議員なら誰でも参加できる政策分野ごとの部会（外交部会や経済産業部会など）で審議され、その後政調審議会で政調役員が審議を行い、政調会としての決定とします。よって全議員が出席し発言できる部会があることにより、大臣や副大臣などの政府の役職にいない多くの国会議員も政府提出法案に参画しているわけであり、与党議員として大きな責任を負っていると言えるでしょう。

政調会長定例記者会見

そしてその政調会のトップである政調会長を岸田文雄は2年間務めており、世界の中でも最も安定している日本の政権の根幹を支えているわけです。

■国政の中心人物として

岸田文雄は政治家としてこれまで数々の実績を残してきました。沖縄担当大臣としては照明の関係で使いづらかった離島の空港に予算を付け地元振興に大きな役割を果たし、内閣府特命担当大臣では消費者庁の新設を成し遂げ、宇宙担当から国民生活担当まで幅広い担当大臣として活躍して「宇宙から食卓まで」と言われました。

衆議院議員総選挙における政権公約の発表記者会見

また野党自民党の際には国会対策委員長として、与党民主党政権を解散に追い込んだいわゆる「三党合意」を岸田国対委員長時代に結び、解散とその後に続く自民党政権復帰の道筋を立てました。

そして自民党が政権復帰した直後に外務大臣に就任し、その４年８ヶ月の間に、日韓外交の楔となっている慰安婦問題に関する「日韓合意」や、史上初となるアメリカ・イギリス・フランスの核保有国の外相が初めて広島原爆ドームなどを視察することとなったＧ７広島外相会合、そして歴史的な現職大統領としては史上初となるオバマ米国大統領の広島訪問と原爆ドームなどの視察を実現させるなど、大きな成果を着実に挙げました。

これらはひとえに岸田文雄の手腕の高さを物語る実績例であり、今や国政の中心になくてはならない人物である証拠でもあります。

オバマ米国大統領に原爆ドームの説明を

Ｇ７広島外相会合にて献花

国際的にも国内的にもいま日本は様々な場面において困難な時代にあります。その中において政治が果たす役割は小さくありません。その中にあって経験も実績も能力も豊富な岸田文雄には果たすべき役割があると言えるでしょうし、それに応える能力が岸田文雄にあります。これからも岸田文雄は国政の中心で活躍していくでしょう。

街頭演説での一コマ

宏池会と語る会